

【取組事例紹介】

ご本人、年齢81歳、要介護5の女性。意思疎通は図れない。

ケアマネより、自宅ではベッド上のみで生活を送られており外出機会も少なく、褥瘡ができていて、褥瘡の処置・観察、入浴、日常生活動作全般の機能訓練、ご家族の負担軽減を目的として利用相談を受けた。

利用開始前に自宅へ訪問、身体状態確認する。声を掛けるも目は開けず発語もなし。首・体幹は前屈が強く座位も保てない。食事・水分・排泄全介助。褥瘡があり継続的な処置が必要。移動は二人介助(足を前に出す事を誘導する、回転を促す)で距離は3mの状態であった。

後日、このような状態を踏まえて、家族・ケアマネ・デイサービス生活相談員、他事業所が集まり協議し、情報を共有・対応策を検討し30年10月から週3回で利用開始。

【決定事項】

- デイサービスでの入浴支援と褥瘡処置、食事の摂取状態を管理する。
- デイサービス、訪問リハビリでの機能訓練を実施する。
- 医療面での管理が出来るよう訪問診療、訪問看護サービスを導入する。

○安全に生活できる様、福祉用具貸与サービスを導入する。

○ご家族に対して、食事・離床・移動等の介助方法を指導。

【デイサービスでの援助内容】

○食事7割以上・水分1000cc以上を目標にする。

○健康チェック・入浴後に褥瘡処置を行う。

○日常生活動作訓練・拘縮予防訓練を個別機能訓練として実施する。

【結果】

褥瘡は完治。首・体幹も前屈は改善され、一人介助の両手引き歩行で30m程を

歩行できるほど距離は伸び、ご自宅玄関の階段も本人の意志で足をあげ昇降で

きるようになられた。食事・飲水・排泄は一部介助に向上。他者交流でも「あ

りがとう」等の発語が聞かれている。デイサービス以外でも、自宅から介護タ

クシーを利用する事で美容室にも行かれる等、外出機会は増えている。ご家族

も「笑っている母を見るととても嬉しいです。介護するのも楽になりました。

デイサービスを利用するのには抵抗がありましたが、今は感謝しかありません」

と話されている。